

西川治先生の履歴と業績目録

履歴書

西川 治

大正 14 年 6 月 16 日 西川太重郎，アイの第 6 子，三男として，東京市本郷区真砂町にて出生

昭和 25 年 7 月 17 日 福井道子と婚姻。

旧本籍地 京都府舞鶴市字七日市 246

本籍地 東京都世田谷区船橋 3 丁目 355 番の 2

現住所 東京都多摩市桜ヶ丘 1 丁目 52 番地の 4

学 歴

- 昭和 7. 4. 1 東京府北多摩郡千歳村立塚戸小学校入学
13. 3. 31 同上卒業
13. 4. 1 青山学院中学部入学
17. 3. 31 同上修了
17. 4. 1 第一高等学校理科乙類入学
19. 9. 30 同上卒業
19. 10. 1 東京帝国大学理学部地理学科入学
22. 3. 31 同上卒業
22. 10. 31 東京大学大学院入学
23. 1. 31 同上依願退学
30. 11. 1 西ドイツ，ボン大学理学部地理学科入学（アレクサンダー・フォン・フンボルト財団給費生）
32. 11. 25 同上退学
36. 11. 25 理学博士（日本における自然地域の変貌）

職 歴（大学関係）

- 昭和 22. 9—24. 5 東京大学理学部副手
24. 6—33. 3 東京大学理学部助手（文部教官）
30. 10—33. 1 西ドイツへ出張
33. 4—46. 3 東京大学教養学部助教授
34. 4—34. 9 東京大学文学部講師併任
35. 1—61. 3 東京大学大学院数物系，後に理学系研究科地理学専門課程担当
37. 4—38. 3 東京大学文学部講師併任
40. 10—41. 3 お茶の水女子大学文教育学部講師
42. 6—42. 8. 30 西ドイツ，スウェーデン，フィンランド，ノルウェー，連合王国，デンマーク，オランダ，ベルギー，フランス，スイス，オーストリア，

- イタリア, カナダおよびアメリカ合衆国上記各国へ出張
- 昭和 43.1.13—43.1.16 南西諸島 (沖縄) へ出張
44. 8—45. 1 東京大学大学改革準備調査会管理組織専門委員会委員
45. 1—48. 3 東京大学改革委員会 (教官) 委員
45. 4—60. 3 東京大学教養学部人文地理学教室主任
45. 9—56. 9 東京大学建築委員会委員
- 46.4.1—現在 東京大学教養学部教授 (61.3.31 定年退官)
- 46.4.1—52.3.31 東京大学現代文化第五講座担当
46. 4—9 日本大学文理学部講師
46. 9—56. 9 東京大学建築委員会長期計画特別委員会委員
47. 4—48. 3 東北大学理学部講師
- 47.11—48. 3 東京大学工学部 (都市工学科) 講師併任
48. 4—48.10 東京大学学寮委員会委員, 教養学部第八 (厚生) 委員会委員長
- 48.10 北海道大学文学部講師
- 49.4.26—49.5.19 スペイン, スイス, フランス, 連合王国, イタリア, ドイツ連邦共和国への出張
- 49.10—55. 3 東京大学教養学部連絡委員会委員
- 49.10—61. 3 東京大学理学部講師併任 (毎年冬学期のみ)
50. 4—52. 3 東京大学院理学系研究科委員, 同地理学課程主任
50. 7 北海道大学文学部講師
- 50.10—51. 3 東京大学工学部講師併任
- 51.2.18 東京大学改革室総合大学院問題専門委員会地域環境科学小委員会委員
51. 4—56. 9 お茶の水女子大学文教育学部講師 (毎年夏学期のみ)
51. 1—9 ソビエト連邦出張, 第 23 回国際地理学会議に参加
- 52.4.18—61.3.31 東京大学人文地理学講座担任
52. 5 筑波大学大学院地球科学系講師
- 53.8.3—53.8.16 ケニア, イタリア, ドイツ連邦共和国, フランス, 連合王国へ環境行政調査研究のため海外渡航
54. 4—59. 3 早稲田大学教育学部講師 (毎年冬期のみ)
54. 4—56. 3 東京大学大学院理学系研究科委員, 同地理学課程主任
54. 4—9 日本大学文理学部講師
- 54.10—56. 3 東京大学教養学部教養学科第一委員長
- 55.10—56. 9 東京大学教養学部教養三学科合同委員会議長
56. 4—9 日本大学文理学部講師
- 56.11.20—56.12.2 メキシコへ研修旅行 (メキシコ政府主催, ハリケーン国際会議参加)
- 56.12—57. 3 高知大学人文学部講師

- 昭和 57. 4—58. 3 東京慈恵会医科大学講師
 58. 5. 23—58. 6. 18 ドイツ連邦共和国へ海外渡航 (ドイツ地理学会議出席)
 59. 8. 15—59. 9. 12 スイス, フランス, ドイツ連邦共和国, オーストリアへ海外渡航
 (第二五回国際地理学会議に参加)
 59. 4—62. 3 放送大学客員教授

なお上記の期間 33. 4. 1—61. 3. 31 の間東京大学教養学部において, 第一委員会, 第二(教務), 第三(予算), 第五(学部報), 第六(学生), 第七(入試), 第八(厚生), 第九(将来計画)の各委員会委員, 建設委員会委員, 建築計画小委員会世話役, 基礎科学科委員会委員, 自然科学博物館委員会委員, 言語文化研究施設委員会委員, 教養学科委員会委員, 人文地理学分科主任, 等を務めた。

業績目録

1. 著書 (○自著, 責編, 共著, ●分担執筆, 共編)
- 1952 ○写真地誌日本 (木内信蔵・佐藤久・山階芳正と共編著) 講談社.
 1954 ●地域調査法, 調査項目. 青野寿郎編「地域調査法」新地理学講座第1巻, 朝倉書店.
 1955 ●地域論 (木内信蔵と共著). 辻村太郎編「地理学本質論」新地理学講座第2巻, 朝倉書店.
 1958 ○風土と生活形態. 岩波写真文庫.
 ●ドイツの土地と人. 「世界文化地理体系」17, 平凡社.
 1959 ●ヨーロッパの集落. 木内信蔵編「世界の集落」集落地理学講座第4巻, 朝倉書店.
 1963 ●世界の交通の地域的特色「交通と生活」東京大学出版会.
 ○「フランス」世界の文化地理第11巻 (前田陽一と共編), 講談社.
 1965 ●ドイツの自然. 住民・都市・村落と人口構成. 「ドイツ・スイス・オーストリア」世界地理風俗大系第17巻, 誠文堂新光社.
 ○「スイス・ベネルックス三国」世界の文化地理第9巻 (與謝野秀と共編) 講談社.
 1966 ○「世界と日本」世界の文化地理第19巻, 講談社.
 ●調査項目. 尾留川正平編「地理学研究法」朝倉地理学講座第2巻.
 1967 地域概念と地域学的考察. 「地理学総論」(木内信蔵と共編), 朝倉地理学講座第1巻.
 ○「モスクワ・ベルリン・ウィーン・ストックホルム」世界の文化地理都市編2, 講談社.
 1968 ●人文地理学の基本概念. 木内信蔵・班目文雄監修「人文地理の教材と指導」明治図書.
 1969 ●地域区分法の応用. 編集委員会編「応用地理学」朝倉地理学講座第13巻.
 ○「福岡・大分・佐賀・長崎」(責編) 日本の文化地理第16巻, 講談社.
 1970 ○「香川・徳島・愛媛・高知」(責編) 日本の文化地理第15巻, 講談社.
 ○「世界地理百科事典」(責編) 講談社.

- 人間と環境. 木内信蔵編「文化地理学」朝倉地理学講座第8巻.
- 1971 ○「地理学と世界」(河辺宏・田辺裕と共編) 古今書院.
○「地理学と教養」(河辺宏・田辺裕と共編) 古今書院.
○「都市と都市観」(責編・分担執筆) 西歐文化への招待 16, グロリア・ホームライブラリー.
- 1973 ●地理教育の理念. 現代地理教育講座 1, 古今書院.
- 1977 ○「地球人の環境」(湊秀雄・浜田隆士・磯田浩・横山正と共著), 東京大学出版会.
- 1980 ●自然と人間と技術—その学問的系譜—, 土木工学大系編集委員会編, 「自然環境論」3, 彰国社.
- 1982 ○「ホームアトラス日本列島」(佐藤久と共編), リーダーズダイジェスト, 平凡社地図出版.
- 1983 ●地籍図の保存をめぐる. 世耕政隆・梅棹忠夫編「後世に残しうるものを」ぎょうせい.
- 1985 ●ボン大学における日本地理学研究. 石田寛編「外国人による日本地域研究の軌跡」古今書院.
●日本における比較風土論の先駆者たち, 細井淳志郎先生退官記念論文集「地域をめぐる自然と人間との接点」
●都市の思想, 田辺健一・渡辺良雄編「都市地理学」総観地理学講座 16, 朝倉書店.
○「人文地理学」(責編, 分担執筆), (日本放送出版協会).
○「人文地理学入門」—思想史的考察—, 東京大学出版会.
- 1986 ○「地図の開く世界」(財)地図情報センター, (帝国書院).
○「日本の自然」(奈須紀幸と共編著) (日本放送出版協会).

2. 論文

- 1949 単位集落の比較研究. 「新地理」2-4.
- 1950 環境の基礎論と地理学における環境. 「東京大学地理学研究」No. 1.
- 1952 地理学における動態的研究. 「人文地理」4-2.
土地利用の地理学的調査. 「地理学評論」25-3.
西天竜灌漑水路開発に起因する景観の変化. 「東京大学地理学研究」No. 2.
- 1953 地理学におけるエピソード. 「地理学」1-5, 6.
世界誌学への道—世界誌と世界観—. 「地理学」1-4.
地域論序説. 「地理学」1-4.
- 1954 農村集落の人文生態学的研究. 「東京大学地理学研究」No. 3.
- 1955 胆沢地方における耕地整理組合の遺業. 「東北研究」5-3.
- 1957 Moderne Wandelung der japanischen Agrarlandschaft. Deutscher Geographentag Würzburg 1957. Tagungsbericht u. Wissensch. Abh.
- 1958 Japan. Strukturwandel seiner Landwirtschaft. Geographisches Taschenbuch. 1958/59.

- 1958 ドイツ地誌。「ドイツ語」10-11, 12, 11-1, 2.
アレクサンダー・フォン・フンボルトとゲーテ, その影響。「地理」4-3.
フンボルトのコスモスイデア。「Humboldt, Ritter 100」日本地理学会。
世界の使節, アレクサンダー・フォン・フンボルト。「学鑑」56/57.
- 1961 地域科学序説—比較研究のための基準空間論—東京大学教養学部「比較文化研究」2.
フルールベライニグングによる農村景観の更新。「辻村太郎先生古希記念地理学論文集」.
- 1962 地理学における自然の変遷。「地学雑誌」71-3.
- 1963 ドイツ地理学会最近の動き。「地理」8-1, 2.
- 1965 リュクリン氏の地球大起伏成立論(大村纂と共著)「地学雑誌」74-5.
日本における土地利用と土地改良に現れた地域的特色。「東京大学教養学部人文科学学科紀要」34, 人文地理学 1.
- 1966 日本における土地改良区の分布。「東京大学教養学部人文科学学科紀要」38, 人文地理学 2.
Geographic Contribution to Regional Planning in Japan. (with H. Kawabe) Japanese Geogr. 1966.
- 1967 都市化地域における農村計画—茨城県新治郡玉里村を例として—「地域開発」7.
世界の大都市圏の諸問題—ドイツを中心に—「地理学評論」41.
- 1968 リヒトホーヘンとその日本滞在記。「地理」13-3.
ヨーロッパの農村の近代的変貌。「地理」13-6.
- 1969 欧米の都市の近郊。「地理」14-10.
- 1970 大都市の成立と巨大化の要因。「ジュリスト」445.
行政区域の再編成と地理学的地域—道州制構想の是非を論ずる—「地理学評論」44.
- 1971 **Land Improvement and Modernization of Rural Areas in Japan. Proc. Dep. Humanities, Univ. Tokyo, Ser. Human Geogr. 3.**
- 1973 **Land Improvement in Relation to Land Forms. Proc. Dep. Humanities, Univ. Tokyo, Ser. Human Geogr. 4.**
- 1976 ヨーロッパにおける風土論の系譜。「地理」21-2.
地理と歴史についての草稿。「東京大学教養学部人文科学学科紀要」62, 人文地理学 5.
- 1977 地理学者の中央アジアへの探検。「地理」22-10.
- 1978 地域主義と地理学。「地理」23-10.
- 1979 環境論の広場。「環境情報科学」8-1.
地理学からみた世界史と国民性。「歴史と地理」.
- 1979 江戸時代の環境思想に関する覚書。「東京大学教養学部人文科学学科紀要」69, 人文地理学 6.
国土の開発史と保全問題。「地学雑誌」89-1.
- 1981 景観論の学際性と民衆性。「環境情報科学」10-4.

- 1983 地域研究とその意義. 市川正巳編「地域研究」発展途上国シリーズ No. 2.
Challenge and Response in the Relationship between Typhoon Disasters and
Human Action in Japan. Proc. Dep. Humanities, Univ. Tokyo, Ser. Human
Geogr. 8.
- 1985 日本人の国土観とその変遷. 「地名と風土」3, 三省堂.

Personal History of Prof. Dr. O. Nishikawa

Experience:

Present Position: Professor of Human Geography, the University of Tokyo, since 1971. Chairman of the Institute, 1971-1985.
Visiting Professor of the Hoso Daigaku, Open University, since 1985.

Previous Experience: Junior and Senior Assistant, Faculty of Science, University of Tokyo, 1947-1958.
Associate Professor, College of General Education, University of Tokyo, 1958-1971.

Stipendiary of the Alexander von Humboldt-Stiftung at the University of Bonn, West Germany, 1955-1957.

Degree: Dr. Sci., University of Tokyo, Geography, 1961 Dissertation: Landscape Changes caused by Land-improvement in Japan.
B. A., University of Tokyo, 1947.

Committee Experience: 1976-78 Chairman, Executive Committee, Association of Japanese Geographers.

1973-77, 1979-present Director, Tokyo Geographical Society.
1979-present Director, Center for Environmental Information Science.

1974-present Member of the National Committee of Geography, Science Council of Japan.

Executive Advisor, 1980 IGC Executive Committee.

1978-present Expert Member, University Chartering Council, Ministry of Education.

1973-present Expert Member, Tohoku (North-east area) Development Council, Prime Minister's Office.

1964-75 Expert Member, Resources Council, Prime Minister's Office.

1985 Member of the Science Council of Japan.

President of the National Committee for Geography.

Major Publications:**Books**

- 1952 Photo-Monograph of Japan, Kodansha, Tokyo. (J) ※
 1967 Essence in Geography, Asakura Shoten, Tokyo. (J) ※
 1979 Environment of Global Man, Tokyo Daigaku Shuppankai, Tokyo. (J) ※
 1985 Human Geography in the History of Geographical Thought. Tokyo University Press. (J) ※
 1985 Introduction to Human Geography, Tokyo Daigaku Shuppankai. (J) ※
 1986 A World Opened by Maps. Teikoku Shoin, Tokyo. (J) ※
 (edited):
 Japanese Geography 1966, its Recent Trends, Special Pub. No. 1, The Ass. Jap. Geog.
 1980 Geography of Japan, edited by The Ass. Jap. Geog., Teikoku Shoin, Tokyo.
 1971 History and Perception of City, Gloria International, Tokyo. (J)
 1985 A Human Geography. Manual for the Open University. (J)
 1986 Japanese Nature. Manual for the Open University. (J)
 ※ joint works. (J) in Japanese.

Papers (English or German):

- 1955 Moderne Wandelung der Japanischen Agrarlandschaft, Deutscher Geographentag Würzburg, Tagungsbericht und Wissensch. Abhandlung.
 1958 Japan. Strukturwandel seiner Landwirtschaft, Geog. Taschenbuch.
 1966 Geographic Contributions to Regional Planning in Japan, rep. from the "Japanese Geography 1966". (in collab. with H. Kawabe)
 1971 Land Improvement and Modernization of Rural Areas in Japan, Proc. Dep. Humanities, Univ. of Tokyo. vol. 38.
 1973 Land Improvement in Relation to Land Forms, Proc. Dep. Humanities, Univ. of Tokyo, vol. 56.
 (Japanese):
 1958 A Human Ecological Study of Japanese Rural Settlement, Bull. Geog. Inst. Univ. of Tokyo.
 1962 Changes in the Geographical View of Nature, Jour. of Geog. Tokyo Geog. Soc. vol. 71.
 1965 Areal Differentiation of Land Use and Consolidation in Japan, Proc. Dep. Humanities, Univ. of Tokyo, vol. 34.
 1966 Distribution of Land Improvement Districts in Japan, Proc. Dep. of Humanities, Univ. of Tokyo, vol. 52.
 1979 A Note on Environmental Thought in the Time of the Tokugawa Shogunate, Proc. Dep. of Humanities, Univ. of Tokyo, vol. 69.

- 1980 History of National Land Development and Conservation Problems, Jour. of Geogr., Tokyo Geog. Soc. vol. 89.
- 1983 Challenge and Response in the Relationship Between Typhoon Disasters and Human Actions in Japan. Proc. Dep. Humanities, Univ. Tokyo Ser. Human Geog. 8.